

放課後等デイサービス 事業所職員 評価結果

討議年月日：令和 4 年 3 月 3 日

公表：令和 4 年 3 月 31 日

%に変換

事業所名

基本塾優遊八坂台

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で 適切である	40%	60%		事業所自体が手狭なスペースである為、利用人数を加味しながら活動場所・内容の応工夫に心掛けている。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%		法的には満たしているが日による利用者人数や活動内容によって負担度も違うので展開内容、場所を考慮も必要。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の 配慮が適切になされている	20%	80%		今のところ利用者が不自由さを感じることなく推移しているが、必要になった場合は設備を改善していく。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標 設定と振り返り）に、広く職員が参画してい る	100%	0%	基本塾全体会で 進め各事業所に て実行している	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアン ケート調査を実施して保護者等の意向等を把 握し、業務改善につなげている	100%	0%	面談やサービス提 供記録を活用し、 共通理解を図って いる。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホーム ページ等で公開している	80%	20%		公開情報を知らない職員がいるので、今後公 開されたら知らせるようにしたい。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業 務改善につなげている	60%	40%		外部評価に関してパート従業員にまで周知されてい なかったので、今後周知徹底し業務改善に役立てたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会 を確保している	100%	0%	専門家による 研修会を実施 している。	
適 切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者 のニーズや課題を客観的に分析した上で、放 課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	利用者の情報を公 開し、客観的に分析 して計画に役立て ている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、 標準化されたアセスメントツールを使用してい る	80%	20%		児童一人一人の分析結果を支援計画に盛り込んで実践し ているが、更に効果的なツールであれば活用したい
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	主任を中心に各々 が考えた教材、活 動を協議して実施 している	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫してい る	100%	0%	児童の実態を考慮 しつつ教材開発に 努めている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	80%	20%	特別講師を招聘し て活動内容を豊富 にしている。	利用児童状況やスタッフの勤務体制を加味し ながら分担し活動の充実にも努めている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動 を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計 画を作成している	100%	0%	常に児童の実態を 考慮した事前の話 し合いを基に活動 計画を立て実施	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、そ の日行われる支援の内容や役割分担について 確認している	100%	0%	スタッフの勤務状 況に合わせて内容 及び分担している	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、気付い た点等を共有している	60%	40%		清掃等の最優先作業後、時間が取れない場合は次 の日の開始前に事前打ち合わせで対応している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	諸々の活動記録に 努め継続支援に繋 がれている	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デ イサービス計画の見直しの必要性を判断してい る	100%	0%	担当職員が実施 し有効活用をし ている	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合 わせて支援を行っている	100%	0%	支援の基本に則り 実践している	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	60%	40%		常にスペシャリストという形ではないが担当職員が参加して改善策を講じている。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%	0%	担当職員を中心に協力体制で漏れ落ちのないよう連絡調整して実施	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	40%	0%		今のところ医療的ケアが必要な利用者はいないが、今後必要な場合は連絡体制を整えたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%		必要の応じて情報提供してもらっている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	20%	80%		まだ該当者がいないが、今後必要が生じた場合は支援内容等の情報は提供したい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80%	20%		まだ該当者がいないが、今後必要が生じた場合は支援内容等の情報は提供したい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	20%	80%		近くの公園で近所の子どもたちと仲よく遊んでいるが、今後交流場所や他機関と連絡を取り、交流の機会を持ちたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	20%	80%		必要に応じて代表者が参加する程度
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡ノートを活用し合っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	80%	20%		保護者学習会を毎月実施して、日頃の悩みなどを話し合う機会を設けている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	75%	0%	契約時に説明し理解してもらっている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	必要に応じて常勤スタッフで実施している	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	40%	60%		そこまで広げられて対応しきれてない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	契約時に保護者に周知し窓口職員も決めて対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	基本塾全体としての便りを毎月発行している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	金庫に収納し施錠保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	薬の服用や通院等に関して情報共有し合っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	60%	40%		計画しているが、地域性もありなかなか実現できてないのが現況である。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	80%	20%		緊急対応マニュアルは各家庭に配布し、他のマニュアルについても塾だより知らせしているが周知が課題。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	定期的に避難訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	虐待マニュアルを作成し、職員に周知している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	80%	20%		具体的な身体拘束場面を想定し、文書で保護者に承諾をとるようにしていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	年度初めにアンケートを取り、対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	発生した場合は、検討会を開き共通理解を図っている。	